



2019

大阪大学舞踏研究会
帝塚山大学、帝塚山短期大学、
大手前大学ダンス部



忘れないでください…

創部当時から今にいたる先輩達、他大学の仲間、
そして応援してくれる人々。

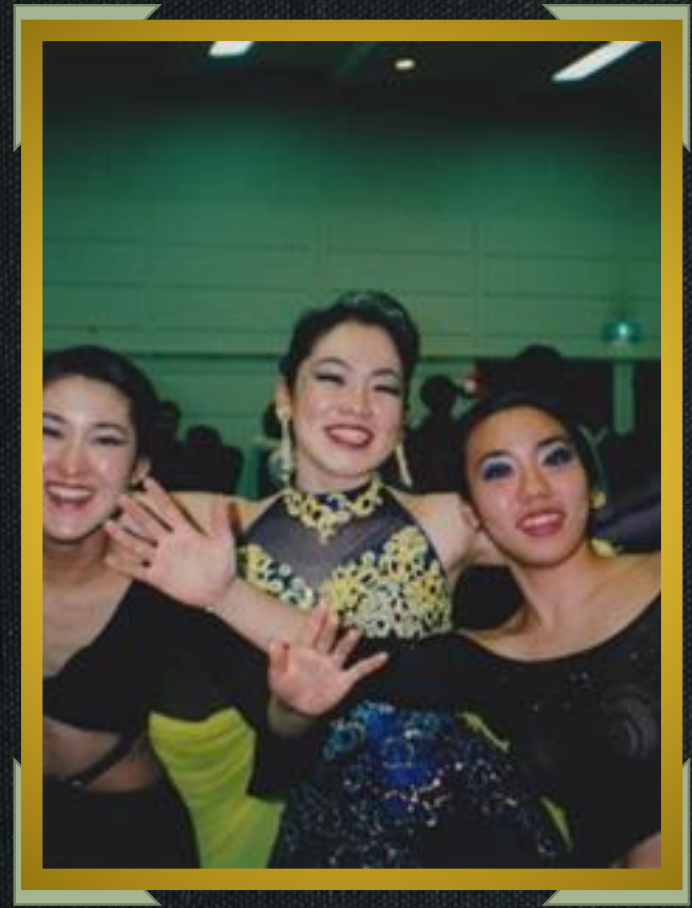


経ちました

50

年







1968～1990

1975永榮・浅井組

パニエからロング、オーストリッチへ

1968伊藤組

1973宮内組

1987宮崎組

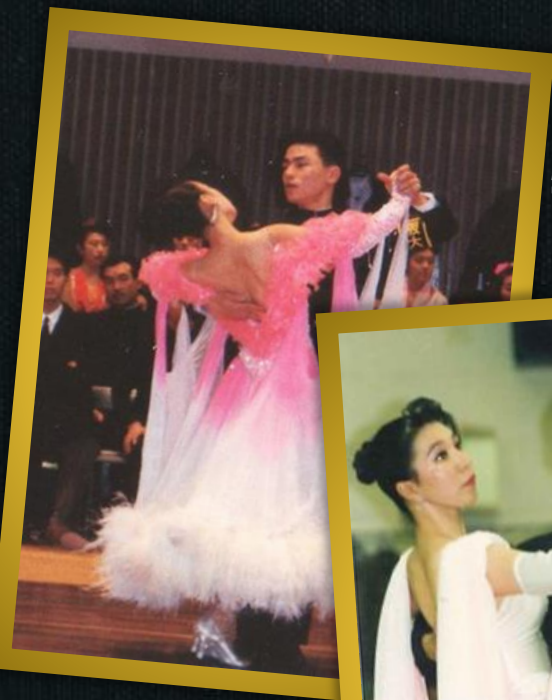
1990鈴木組

1993～2005

1997石村・澤田組

学生服から燕尾服へ

モダンからスタンダード、ラテンへ



1993大矢・伊熊組



1994山村・篠原組

2002郷原・岡崎組

2005菊池組

2019 7/13 50周年パーティより



OBOGアマ 宮内組



OBOGフ口 中辻・岡崎組



OBOGフ口 橋場・今泉組



OBOGフ口 仲秋組

2019 7/13 50周年パーティより



現役 片野・長野組



現役 中塚・丸岡組



現役 吉野・岩越組



帝塚山OGフォーメーション

関西学生舞踏連盟年表

1985関西学生舞踏連盟発行機関紙 LOD より

学連が始まった時から、現在のリーダ校、パートナー校が決定していたわけではなく、いろいろな大学が入れかわり、今に至る。
そして、4年制(短大は2年)の学生ダンス生活と終え、アマチュアから、プロ

LOD

口になられた方も、羽数、おられます。私達の30才上の先輩のつくられた学連。今、私達が変わり、又下の後輩たちが、それなりにつくりかえて行くでしょう。学生が自分達の手で運営していく連盟や競技大会、冊子づくり、LOD発行。(たまには、トロフィーの注文を忘れたりするトシサ人もあるけれど)大人でも子供でもない大学生が、自分達でつくっている学生舞踏連盟。ほら! 今、これと読んでいるあなた、あなたの腕と力が、学連とマナえているのです!

関西学生舞踏連盟年表

橘女子大学 白山麻樹

1950関西学生ダンス開始

	西暦	
	1950 (S25)	関西で学生ダンスが行われる
第1回関西戦	56	現在の秋季関西戦はじまる
関西戦	65	現在の春季関西戦はじまる
西部日本戦		西部日本学生舞踏連盟結成
		現在の西日本戦はじまる
		関西でフォーメーションはじまる
第2回早慶同立戦		現在の東面対抗戦
	67	はじめて、京都以外で競技大会が開催される
全関西戦	74	
七帝戦	75	(北大、東北大、東大、名大、京大、阪大、九大の旧七帝国大学で競われる)
	77	二部戦はじまる
種目別戦	78	翌1979年から、学年別戦に改組される

1966
西部日本学生舞踏連盟

1968阪大舞踏研究会発足

大阪大学舞踏研究会顧問 福田先生より

大阪大学舞踏研究会が創立50周年を迎えたとお聞きし、お祝いを申し上げます。

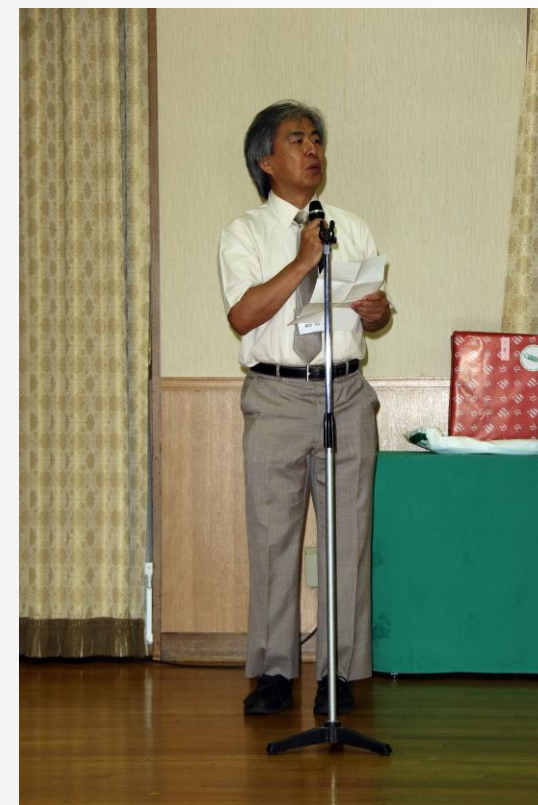
私は舞踏研究会顧問を仰せつかっておりますが、実は全く舞踏あるいは社交ダンスの経験はありません。

それどころか、全く申し訳ないことに舞踏研究会の練習や試合に顔を出したことすらありません。いつも、年に1, 2回、系の学生さんが印鑑をもらいに来るのに対応して、その時に少し活動の様子を聞いたり、OB会を開くための手続きのために倉田さんとのメールのやりとりをしたりするくらいです。それでも、舞踏研究会のご活躍は度々噂に聞いており、自身は何も貢献できていないにも関わらず、大阪大学の一スタッフとして誇らしく思っております。

舞踏には全く疎いながら、いただいた舞踏研究会45年史をめくり眺めていると、各年代でのそれぞれ舞踏・ダンスに打ち込んだ熱い思いが伝わってきました。年表も併せて拝見していると、やはり舞踏研究会の華々しい活躍は、この長い歴史の積み重ねの上に築き上げられたものなのだなということが実感できます。それぞれの年代にそれぞれのドラマがあり、そのダンスへの熱い思いが連綿と受け継がれてきているのがよくわかります。

実は私自身も大学の時に運動部（バドミントン）に所属しており、つい数年前にやはり50周年記念の集まり参加するという経験をしましたので、似たような感慨を覚えたことを思い出しました。ただ、舞踏研究会にあって我がバドミントン部に欠けているものは、活発なOBOG会の活動かと思います。45年史にも様々なOBOG会活動の側面が読み取れます。OBOG同士が非常に仲良く活発に交流をし、かつ、現役世代の指導も熱心にされていることが良くわかります。やはりこの辺りが、阪大舞踏研究会の戦績が素晴らしいことの秘訣になっているのかなと思います。

このような50年間の良き伝統を、今後も次世代につなげていかれることを期待するとともに、舞踏研究会のさらなるご活躍・ご発展をお祈りいたします。



2019年7月 50周年パーティにて

帝塚山大学競技ダンス部元顧問 上田先生より

A L L 大阪大学舞踏研究会創設 5 0 周年、おめでとうございます。

うるおぼえの記憶からは、当時、帝塚山大学は大阪大学舞踏研究会のパートナー校としての文化部としてのダンス部であり、活動はほぼ大阪大学内で行っていたと覚えています。ところが大阪大学での練習場は急に確保できなくなったとのことで、川上さん、大谷さんから、練習場を確保したいとの申し出が、当時名ばかり顧問だった私にありました。練習場を確保するには体育会への登録が必要で、体育会への登録申請を行い、卓球、剣道などに使用していた練習場を総務課にかけあって無事に確保できました。とはいえ私のやったことは、申請書類への判子を押すことだけなので、自称「判顧問」です。また当時、帝塚山大学は女子大であり、クラブ活動とはいえ、他大学の男性が大挙、女子大の部室などに出入りするため、最初はルール作りなど色々苦労した記憶が残っています。その後、帝塚山大学は男女共学となり、大阪大学舞踏研究会とのパートナーシップがなくなり、競技ダンス部が消滅したと聞き、少し残念ではあります。

いづれにしても大学時代のクラブ活動を通じた交流はその後の人生に多いに影響を与えます。皆さんも本会で久しぶりに出会えたことをきっかけに今後益々交流を深め、より良い人生を過ごしてください。5 0 周年まことにおめでとうございます。



1981年3月帝塚山大学卒業式でダンス部と一緒に

大学OBOGより2019年7月 50周年パーティで祝辞をいただきました。



京都大学OB
北川 様



一橋大学OB
池端 様



大阪市立大学OG
山野 様



関西大学OB
山岡 様



立命館大学OB
長岡 様

大阪工業大学（1981年卒）松村健樹さんより

大阪大学舞踏研究会 50周年誠におめでとうございます。

私は大阪工業大学競技ダンス部昭和56年卒の松村と申します。私の入学した大阪工業大学は工科系単科大学で当時は女子学生がほとんどいなく、最初のきっかけはダンス部に入れば女子と知り合いになれるのかなーという漠然とした（不純な？）動機で入部しました。入部してすぐに春の学連の競技会に先輩達につれていって貰ったのですが（確か十三のダイヘン体育館でした）、そのときの強烈な印象は今でも良く覚えています。世の中にこんな美しくも、素晴らしいものがあるのかと感動しました。特に堅い床の上なのにフィギアスケートのように、滑らかに、しかもとても優雅に二人で動いていたこと、その動きの優雅さにとても心を打たれました。それからはみなさんと同じく、私の大学生活はダンス一色になりました。当時大阪工大のダンス部は社交ダンス同好会で、本格的に競技会には参加はしておらず、先輩達が時々数組だけ学連の競技会に出場していた状況でした。しかし私の代に競技ダンス部に改変し、一気に競技志向に持っていきました。工学部でしたので、学業との両立は大変でした。またパートナー校は住友病院附属高等看護学校、大阪鉄道病院附属高等看護学校で、これまた実習が厳しく練習の時間がなかなかとれないとのことで、なかなか大変でした。それでも週2回の講堂での練習。またパートナー校での合同練習を続けました。鉄道病院高等看護学校の総務課に理解を求めるために、部員の皆で学生服に部の腕章巻いて直談判に行ったこともあります。（今から思うと若かったなーという感じがしますが、）ダンスはほかのスポーツと違って大学から始める場合がほとんどであったため、またマイナーな競技故に、学連の各校のダンス部の連携はほかのスポーツ部よりも高かったように思います。私達はダンス部としては弱小校であったため、強豪校の阪大や、京大、関大ダンス部との連携活動も多く、合宿等の行事によく参加させて頂きました。参加した行事としては京都大学での春秋の合同合宿、関西大学での合同練習、リーダーズ キャンプなど今でもよく覚えています。特に京大での合同合宿は泊まり込みで24時間ほぼ徹夜で練習したのを懐かしく思います。京大の舞踏研究会の練習場は、吉田キャンパスの古い講堂で、オーケストラ部とフロアを折半していましたが、24時間いつでも踊れるという今から思うと夢のような空間でした。大阪工業大学は当時弱小でしたけれども、それでもなんとか頑張って団体戦で総合6位入賞まで持っていけたことは今でも自慢に思います。応援合戦などもあり、何回も応援の演舞の練習をしたことを懐かしく思います。しかし大工大競技ダンス部は、結局私が卒業して5～6年後に部員が集まらず、廃部になってしまいとても残念です。一緒に戦った同世代のメンバーも良く覚えています。阪大の永榮さん、倉田さん、また京大メンバー、主将も個性がとても強く良く覚えています。皆の憧れだった橘女子大の芦田さん。同志社の井上伸さん、また立命の同期生達。皆懐かしい人たちばかりです。

私は、卒業後もなぜかずっと競技ダンスを続けて、ほぼ40年間、一年も休まず競技に出場しています。20代は仕事が忙しくてダンスにはそれほど注力できませんでしたが、続けてはいたので、30代後半でアマ全日本ファイナリストになることができ、その後、西部チャンピオン、世界シニア選手権ファイナル、最近では全英選手権OVER50のファイナルに進出することができました。ダンスはもはや私のライフワークです。紆余曲折はありましたが、ここまできたらダンス界のレジェンドといわれるまでがんばろうと思っています。これだけ続けてこられたのも、きっかけとして関西学連ダンスのおかげでダンスと出会えることができ、あのダイヘンの体育館での学連競技会での感動が原点となったからです。関西学連ダンスの組織があったおかげです。

阪大の舞踏研究会が50年も続いたのも、部員の活動もちろんですが、きっとOBOOGの方々の結束の固さ、伝統があるからだと思います。阪大部研が今後100年、200年と続くことをお祈りして筆を置きます。



2019年全英選手権OVER50（ブラックプール）

神戸大学OBOG 伊加井義弘・真弓組より



神戸大学、1988年と1989年卒業の伊加井義弘・真弓組です。大学を卒業してから結婚し、カップルを組んでアマチュアの競技会に出ています。なんと今年で30年。子供も二人授かりましたが、1年も休まずに細々と競技を続けてきました。

そのかいあって、現在はJDSFのスタンダード・ラテンともA級です。今日はデモをする機会をいただきありがとうございます。「細く長く」という競技の楽しみ方もあるのだということを、少しでも感じていただければ嬉しいです。

2019年7月 50周年パーティにて

YMダンス 守谷 良晴先生より



このたびは、大阪大学舞踏研究会創設50周年、おめでとうございます。YMダンス教室の守谷吉晴です。本会におまねきいただいておりましたが、急な外せない仕事と重なってしまい、誠に残念ですが、欠席となってしまいました。

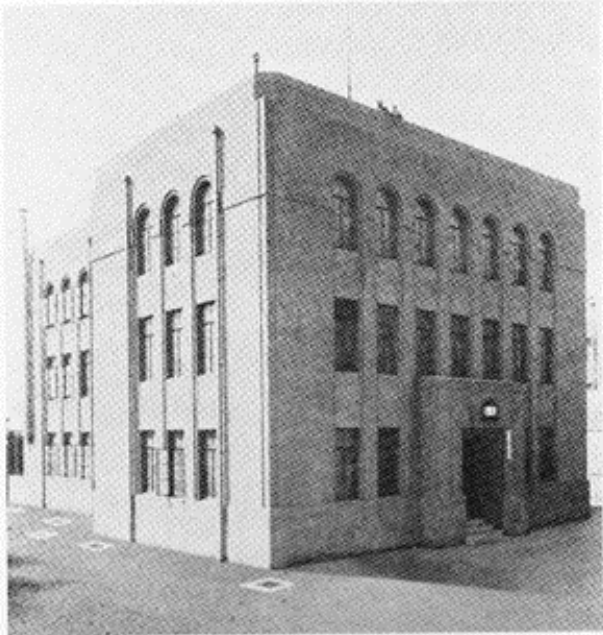
YMダンス教室も今年で開設46年になり、皆さんと歴史を同じように半世紀にわたりすこずつですがダンスの普及発展を目指してきました。大阪大学舞踏研究会の皆さんとのお付き合いのきっかけは、教室開設の数年後に、大阪大学舞踏研究会の宮内さんが当教室に訪問されたことに始まります。その後、大阪大学舞踏研究会の皆さんとは約

40年にわたる長いお付き合いが始まりました。卒業後、ダンスのプロとして、アマチュア競技選手としてダンスを継続しているOBOGの皆さん、また社会人として活躍されている多くのOBOGの皆さんと、学生時代のひととき、ダンスを通じて交流できたことはダンス教師としての幸せを感じています。皆さんの強い個性に、指導方法には苦勞しましたが、私もまだまだ教室で元気にコーチングしていますので、また教室でお会いできること楽しみにしています。昔の思い出話に花を咲かせましょう。

本当に50周年おめでとうございます。皆さんで100周年を目指してください。

2019年7月 50周年パーティへの祝辞

1965 大阪大学社交ダンス部の創部



学友会記念会館 病院焼失を憂えた同窓生の寄付金で建設された

1965年 大阪大学舞踏研究会は
中之島医学部学友記念会館3階で
社交ダンス部として医学部、歯学部メン
バーで活動開始

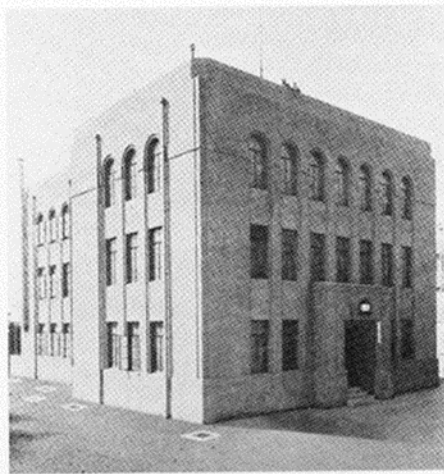


中之島キャンパス

1965 大阪大学社交ダンス部の創部



尾結核研究所（堂島）



学生会記念会館 病院焼失を憂えた同窓生の寄付金で建設された



（）厚生病院（堂島）

校長佐多愛彦が医科大学の充実を府・市・業界に働きかけたことと第一次世界大戦景気によって、1915(大正4)年以降寄付が相次ぎ、竹尾結核研究所、堀見理化学研究所、山口厚生病院、泉尾診療出張所、特殊皮膚病研究所が設立され、和具臨海実験所用地が寄贈された。これらは帝国大学創立の基礎となった。



和具臨海実験所（和具臨海会館）より見た



大阪大学 中之島キャンパス（創部当時）



た頃の中之島キャンパス

大学は、今や8学部を擁する全国屈指の総合大学だが、いまだ大学活動の中心となるべき大講堂を
かたので、大阪大学振興会は、同大学創設25
記念事業として待望の講堂を建設することを発起
財界の援助を求め、大阪市中之島に地を定めて
堂を建て、今ここにこれを大阪大学に寄付する。
われは、この講堂が、今後、大阪大学の発展とそ
連成と並びに当地方における文化の向上とに大い
つべきことを期待するものである。

昭和15年7月

大阪大学振興会会長 水 道助



新設された地下合廊に事務所が移転

1965-67 社交ダンス同好会

大阪大学(1971卒1期) 倉田義之



大薮 渡辺

昭和43年11月記念館での練習後に撮影。

私がダンス部に入部したのは、ダンス部が創部されてから半年後（1965年秋ごろ）の頃だったと思います。その頃は社交ダンス同好会という名前でした。その当時、医学部、歯学部は中之島地区にあり、練習場所は、医学部記念館の3階ホールでした。床は板張りではなくリリウム張りでした。部員はすべて医学部と歯学部の1年生で10名程度、私のクラスメイトでした。練習相手は同じ敷地内にあった阪大病院の附属看護学校の学生さん達でした。やはり10名ほどの部員がおり、合同練習という形でした。週3回程度、放課後に練習していました。看護学校のダンス同好会はもう少し前から歴史があったように思います。

その頃は運動クラブなどが部費を稼ぐため社交ダンスパーティーを頻回に開催していました。ダンス部に入部してくる者も何とかダンスパーティーで踊れるようになりたいと考え、入部してきたように思います。

その頃の練習は、社交ダンスを教えてくれる先輩もいないし、ダンスの先生に来てもらうこともできなかったもので、足の位置を書いた図をみながら足の運びを練習する、など全く手探りでダンスの練習をしていました。しばらくして歯学部の1年先輩の松代さんがダンス指導に来てくれるようになり、めきめきと上達するようになりました。練習するダンスの種目もブルース、ワルツ、タンゴ、ジルバ、クイックステップなどと増えていきました。

さらにダンス部を発展させるには部員を増やす必要があるということになり、1968年4月ごろから練習相手として帝塚山大学、帝塚山短期大学が加わるようになりました。男性側も医学部・歯学部だけでは部員不足になるとの考えから全学に広げようということになり、また、ダンス部の名称も同好会から舞踏研究会に名称変更することになりました。

生まれ変わった舞踏研究会は、1968年11月には、秋期関西学生舞踏選手権（大阪YMCAにて開催）の新人戦、団体戦に出場するようになりました。

1967 フォーメーション練習風景



1967年12月記念館でのタンゴフォーメーション練習風景。

新大阪ホテルでのデモンストレーションのための練習。

パートナーの女性は阪大病院附属看護学校社交ダンス同好会の学生達。

右端に写っているのが松代さん。上方で8mmカメラで撮影し、練習成果を検討。

1967 フォーメーション練習風景

佐多

倉一宮

横田



昭和42年12月10日 ワルツフォーメーション練習風景

倉田

波田

渡辺



昭和42年12月10日 タンゴフォーメーション練習風景

1968 大阪大学舞踏研究会 創設

1968 帝塚山大学、帝塚山短期大学がパートナー校として合流し、
大阪大学舞踏研究会 創設

横田 大藪 倉田 島田 伊藤 井上 佐多 高間



昭和43年12月新大阪ホテルにて帝塚山短大主催のパーティーで
デモンストレーションを行った時の記念撮影

西井 宇都宮 渡辺 林田



1969 競技会に初参加 「背番号の思い出」

大阪大学(1971卒1期) 西井

阪大ダンス部が西部日本学生舞踏連盟の競技会に大学として初めて参加したのは、昭和44年(1969)の第3回春季大会（於名古屋豊田ビル）でした。この時は未だ連盟登録の背番号が貰えず、大会当日に与えられた仮の背番号 3 0 番台をつけました。この大会に参加した数組の中の1組が新人戦で優勝、団体戦個人総合で6位に入り、この結果を受け、大会後連盟から正式に「4 7 0 番台」の背番号が与えられました。

同年の秋季大会前日の練習終了後、「背番号は？」という話になり、全く準備されていないことに気付きました。「しょうがないから、白い切れにマジックで書いたもので間に合わせよう」ということになりかけましたが、「チョットみっともないぜ」ということで、とにかく「西井がなんとかする」ということになりました。下宿のおばさんに「黒と白の布切れありませんか」と相談したところ、「コートの端切れの黒のベルベットがあるから、白のフェルトは買ってきてあげる」と言ってくれました。方眼紙に、「背番号」のための4 7 0～4 7 4までの数字と「腕章」のための「阪大」の文字をレタリングし、下宿のおばさん、同じ下宿の関大の友人、社会人のお姉さまら総出で、文字の切り抜き、貼り付け、アイロンかけ、かがり縫いなどを行い作り上げました。

この時の「背番号」と「腕章」は今も残っているのでしょうか。私には成績もさることながら、絶対に忘れられない「ダンス部の思い出」です。

1970 夏合宿



岡島さん

大阪大学(1976卒) 岡島雅明

私の在部中は中ノ島にあった医学部記念館が練習場でした。豊中に住んでいた私は阪急梅田駅から堂島地下街を通って練習場まで歩いて通っていました。パートナー校は奈良の帝塚山大学と短大でしたが彼女たちにはあんなに遠くまでよく来てもらったものと思います。ありがとうございました。OBになってから現役女子部員に事務的な連絡があり御家に電話をしたときに、ご家族の方が電話を取られて、「うちの娘を遅くまで引っ張りまわすのはあんたか！」といきなり怒鳴られてビックリしたことがあります。（私ではありません！）

私が入部した時の主将は林田氏で練習には松代氏や倉田氏、佐多氏等の先輩たちがよく見に来てくれました。練習の帰りには何人かで阪神百貨店の裏にあった珉珉に寄って、餃子とジンギスカンとビールでおなかを満たして帰っていました。先輩たちの話を聞くのも楽しく、飲み連れて行ってもらったりしていました。

さて、部活といえば夏合宿。暑くてしんどかったけれど、ほかの事は何も考えずに毎日好きなことだけをして本当に楽しかった。先輩たちも練習に、夜の飲み会にと参加していただきました。当時は朝6時半のラジオ体操から始まり午前、午後、夜と一日中練習しても一晩寝れば疲れはとれていたようです。最後の夜には打ち上げの宴会があり、遅くまで騒ぎ過ぎて民宿の方にしかられました。あれは千曲川のほとりでしたが、あれからその民宿は使えなくなったのでしょうか？

定年前から再びダンスを始め60歳から夫婦で競技会に出ています。今では3時間も練習すれば疲れて動けなくなりますが、体の動く限りはダンスを続けようと思っています。

創部し歴史を作ってくれた先輩諸氏には大いに敬意を表し、生涯の楽しみを得る機会を作っていただいたことに感謝します。また、現在では後輩諸君が全国レベルで活躍されていて頼もしく、このようなクラブに鍛え上げてきた後輩諸氏に感謝！です。

1970年 梅津夏合宿

清水先輩 岡島先輩



西井先輩 林田先輩

1970 西部日本戦優勝 伊藤組



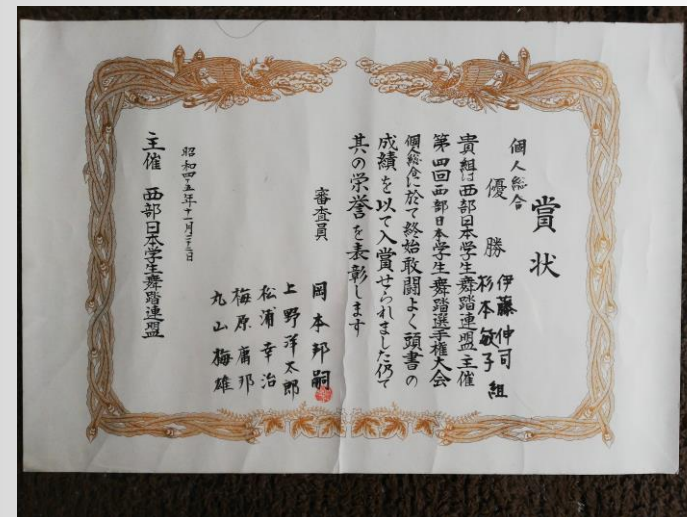
帝塚山短期大学(1971卒) 伊藤敏子

正直申しますと、主人が上手だったのです。ただ私は自分の下手さが分かったところからすこずつですが上達していったと思います。最後の競技会で優勝という良い成績を残せたのは自分達のことだけではなく、部の仲間たちを心の底から応援し、気遣えるようになっていたからだと思います。

その時、主人は大阪大学の副キャプテン、私は帝塚山短期大学のキャプテンでした。

優勝した前の競技会では、成績があまり振るわず、二人で落ち込んで悩んで、大和文華館で心を癒したりしていました。実は主人は大事な最後の競技会で足首の捻挫をしていました。とても痛かったと思います。でも決勝戦では、一曲一曲を一步一步をたとえ倒れることがあっても本望だと思いながら力の限り、楽しんで共に踊りました。

今では最高の思い出となりました。



1970 西部日本戦優勝 伊藤組



1985 「OB会の近況」

1985関西学生舞踏連盟発行機関紙 LOD より

大阪大学(1971卒) 林田道昭

OB会の近況

昭和56年12月に関西学生舞踏連盟 OB会が結成され、早くも4年が過ぎようとしております。

昭和47年に東部で、その後徐々に各ブロックで OB会が発足し、その活動の1つとして OB審査が行われております。

OB会の目的は、会員相互の交流と親睦を図るとともに学生舞踏の発展と社会的地位向上のために、現役の活動を支援することであると規則に書かれております。現在、具体的活動として ① OB会ダンスパーティー開催 ② 会報の発行 ③ OB審査などでありますが、特に OB審査は アマチュアリズムを発揮していくため不可欠なものであり、全関西、秋季関西、東西対抗、西日本、全日本戦を除く、二部・六大学、春季関西、学年別戦の3つの大会で行われており、将来は OB審査による大会を増やしていきたいと考えております。OB会ダンスパーティーは年一回、学年別戦終了後に開催されておりますが、会員数約300名の割合には参加者が少なく大変残念であります。今後、開催のやり方を種々検討し、有意義なものとし、一人でも多くのOBのオカに参加していただき OB同志又は現役との交流を深めて頂きたいと思っております。

これからOB会の活動としては、以上の他に OB会名簿の作製、OBと現役との座談会などを行う予定であります。関西学生舞踏連盟の発展のために OB会皆様のおご支援を心からお願いする次第であります。最後は、日頃事務的な行事

をお願いしている現役の皆様にお礼申し上げまして、OB会の近況報告と致します。

OB会評議委員長 林田道昭

(S.46年卒、阪大OB)



1973-77 七帝戦スタート、全日本戦参加

大阪大学(1977卒) 宮内秀幸 (45年史より)

高間 伊藤 池田 佐々木 宮内 村上 小西 吉田



酒匂 田中 梶山 山崎 岡田



私の入部は昭和48年(1973年)。大学に入ったら、ダンス部へ入ることを楽しみに受験勉強をしていた私は、入学後すぐに入部しました。田舎から出てきて、知合いも友達も一人もいなく心細かった時に、いきなり仲間がたくさん出来て、嬉しかったのを今でも覚えています。

先輩は、男子は岡島さんと椋木さんの2人だけで、女性も数名でしたが、同期は男女で10名程度、にぎやかになり、練習は本当に楽しかったです。大学へは、あまり行きませんでした。中之島練習場へは4年間ほぼ皆勤賞でした。その後も部員集めには苦労しましたが、幸い、恒に男女10名ずつ位の部員が集まり、団体戦も戦えたと思います。

当時の競技会は、関西戦と西部戦がありました。関西戦では、京大と関大が強く、関大を抜いたと思ったら同志社が強くなり、いつも3位だった記憶があります。その後、京大などと相談し、七帝戦をスタートさせたり、全日本に初出場したり、合宿も早稲田大を相談して、時期と場所を一緒に行き、部員を交流させたり、活動を活発化させていきましたが、何をするにしても“初めて”で戸惑いも多かったけれど充実感もありました。

今、私は、30数年ぶりに、ダンスを始めましたが、又、仲間がたくさん出来て楽しい思いをしています。つくづくやっていた良かったと思う今日この頃です。現在、阪大ダンス部が、たくさんの部員がいて強くなっていると聞いて、先輩・同期・後輩達に深く感謝し、現役学生達には、今後も頑張ってもらいたいと心から願っています。

1976-79 「ダンス部の思い出」



帝塚山短期大学(1979卒) 浅井恵美 (45年史より)

私が競技ダンス部に入ったきっかけは両親の影響でした。父と母は若い頃ダンス教習所で知り合い結婚しました。父はお酒が大好きで酔っ払うと小さな私を相手にジルバやボックスを踊ってくれました。ジルバは母と私の二人を両手でリードできました。

大学進学の間になると学校案内を見て、競技ダンス部のある短大を探していました。それで入学したのが帝塚山短大です。新入部員は7～8名でした。二年生の上田先輩が帝塚山大学、中ノ島の記念会館、石橋の阪大へ練習に連れて行ってくださいました。記念会館の床がピータイルですぐ剥がれてしまいシューズの痛みが早かったこと。入部した年のクリスマス会で、男子が女装し女子が男装をして踊る企画には驚きました。その後ギターに合わせて歌を唄ったりして楽しかったことを覚えています。

競技会で一番印象に残っているのは梅田ワールドでのオープン戦です。モダンに出場するのにラテンシューズを持っていき「どうしよう」と思ったのですがラテンシューズで踊って二位になりました。特に足も痛くならずうまく踊れたのが未だに不思議です。

短大を卒業してその後もう一年活動させて頂きましたが、結婚するときにプレゼントしてもらったみんなからの色紙とサイン帳が私の宝物です。32年前のものです。後輩からのメッセージには「これから阪大は強くなりますので応援してください」と書かれてありました。この言葉どうり今では人数も増え、全日でも良い成績をおさめるまでになったことは本当に素晴らしいと思います。

これからもますます現役部員が活躍されますようにOBOG会のメンバーの方達と共に応援していきたいです。

1977 中之島会館閉鎖、大阪大学学生会館、帝塚山大学卓球場で練習開始

大阪大学(1981卒) 倉田昌典

私の入部は昭和51年（1976年）。大学に入ったら、何か楽しいことをやりたく、ダンス部へ入ることにしました。6月に入部し、練習は中之島の医学部会館。フロアはピータイルでぼろぼろ。最初は何のクラブかもわからず、ただ先輩女子に手取り足取りステップを教えてもらいました。練習帰りの先輩、同期との夕食が楽しく、とりあえず続けることに。夏の強化練習あたりから練習がきつくなりましたが、からだには合っていたようで、さぼらず毎日練習に通いました。

1年生の12月に中之島会館でクリスマスパーティを開催し、ピータイルの補修が終わったところで、中之島会館閉鎖の知らせ。大変ショックな出来事でしたが、帝塚山大学部員の努力のおかげで、生駒の帝塚山大学卓球場の使用が許可され、以降、大阪大学学生会館と帝塚山大学卓球場の二か所で練習することに。石橋と生駒、遠い場所でしたが今思えばよく通いあったものです。

新入部員は数十名いましたが、合宿終わって試合になると新人は5組程度。以降減る一方で、3年生には同期は2組まで減ってしまいました。その後の目をみはる隆盛が信じられないですね。

試合会場は 城東区民ホールと住之江区民ホール、が記憶に残っています。また西日本戦、七帝戦、全日本戦など関西以外での試合にも楽しく参加できました。

50周年の記念に45年史に資料を加え再編集してみました。今後、60周年、70周年と続くことを願っています。

1980 春季関西戦にて (城東区民ホール)



1979-83 「ダンス部の思い出」



リーダースキャンフ



帝塚山大学の部室にて



フィナーレのあとで

帝塚山大学(1983卒) 岡山美恵子 (45年史より)

早いもので、卒業して30年経とうとしています。思い起こせば、勧誘のチラシについていたミルキーの飴につられてダンス部の部室に足を踏み入れたのが始まりでした。パートナーが阪大という事で、大学生になったばかりの私は、期待に胸をはずませ迷わず入部した。思っていたのとはうらはらに、練習のきつい事。夏合宿ではホールド10曲（だったと思うのですが）で腕がちぎれそう。先輩が直しにきてくれた時はこれ幸いと先輩の腕にまかせたりなんかして……。おまけに靴ずれときたものには膿で靴がひっついて脱げない。まあ他では経験出来ない事が出来たという事にして（いいんだか悪いんだか）練習のスケジュールは、月曜日坂を登って石橋の阪大へ。水曜日は学園前の短大、そして土曜日は帝大に集まっての練習。今から思えば若かったからできたんだなーとつくづく若さはすばらしい。

連盟委員をして私は、月一度京大と関大での委員会に参加していました。（関大の近くの王将よく食べたなあ。京大に行くのにバスを間違えてよくタクシーで行ったなあ）そして、年に一度八月に京都で全国から集まってのリーキャン。浴衣を着て大文字焼きを見に行ったり、保津川下りにも行った。北海道の七帝戦で、敦賀から小樽まで32時間かけて船で行った事もあった。思い出せばいろいろな事がつい最近のように思われる（ちょっと言いすぎ？）辛い事もあったけどみんな、同期、先輩、後輩との結びつきがあったから続けられたんだとつくづく思う。

30年振りに再会出来て、全然変わってない人、そうでない方、まあいろいろですが、お会いできて、ほんとうに嬉しかった。今は年に一度同窓会が定着しつつあるのでとてもいい事だと思っています。そして、阪大舞踏研の益々の発展を心より願っております。

1981 「第15回春季西日本戦」



1981
第15回春季西日本戦にて
(城東区民ホール)



1981年フィナーレ

第15回(前回)1981年5月31日 城東区民ホール

《 団 体 》			《 個 人 》			
順位	大 学 名	得 点	順位	選 手 名	パートナー名	大学名
1位	関 西 大 学	118点	1位	松 内 秀 樹	土 原 雅 世	京 大
2位	京 都 大 学	110点	2位	安 楽 睦 大	林 由 花	関 大
3位	名 城 大 学	60点	3位	山 村 敏 郎	高 山 裕 子	関 大
4位	神 戸 大 学	50点	4位	横 塚 大 典	小 畑 ゆ かり	京 大
5位	大 阪 大 学	40点	5位	堀 畑 正 純	山 下 朋 子	京 大
6位	同 志 社 大 学	38点	6位	田 中 弘 昭	桜 井 陽 子	名 城

《 新 人 戦 R , C 》						
順位	選 手 名	パートナー名	学校名	順位	選 手 名	パートナー名 学校名
1位	坂 本 裕 史	織 田 緑	関 大	4位	中 村 昌 洋	竹内恵理子 京 大
2位	高 砂 幸 穂	磯 村 朋 子	神 大	5位	栗 本 英 治	柴 田 光 子 名 大
3位	島 田 耕 一	中 西 孝 子	京 大	6位	佐 藤 浩 昭	野村ゆかり 京工繊

《 フ ォ ー メ ー シ ョ ン 》					
順位	大 学 名	順位	大 学 名	順位	大 学 名
1位	京 都 大 学	3位	京都工芸繊維大学	5位	関 西 大 学
2位	大 阪 大 学	4位	愛知学院大学	6位	名 城 大 学

1981
フィナーレにて

1982 「入部当時の思い出・強制自由練習？」

大阪大学(1986卒) 橋本茂雄
(45年史より)



春合宿(吉野)



夏合宿



「今ジルバ講習会をやっているんですけど、人がいなくて困ってるんです。」当時大学で下宿生活を始めたばかりのころで知り合いも無く、ふらふらと構内を歩いてたところ、冒頭の言葉をきれいなお姉さんから言われて、ふらふらと練習場に連れて行かれたのが最初のきっかけでした。「阪大にもこんなきれいな女の人がいるんだ～」とその時思ったのですが、その方は阪大ではなく、帝塚山大学の2回生の方で、しかも、テレビのパネルクイズ「アタック25」の司会者の児玉清の横でアシスタントを務めている方でした。私はテレビを見ながら、芸能人と知り合いになったような気分で感動したのを今でも覚えています。それからというもの、女の先輩はちやほやしてくれるし、男の先輩は晩飯を奢ってくれるし、下宿生活で知り合いも少なく、懐も寂しい私にとっては、天国のようなところでした。しかし、いいことはなかなか続かないもので、気づいたときにはハンガーのようなかっこうをさせられて、肩が上がっているとやされ、抜け出すことは難しい状況になっていました。その頃、同時期に入部したもので、残っているのは、男性5人、女性7人くらいだったと思います。ただ、男性5人のうち、1回生は私を含めて2人で、あとの3人は2回生という構成でした。先輩の2回生とは同級生、ということでタメ語で話し、なあなあの関係になっていました。先輩後輩の関係が崩れて、部の秩序が乱れます。

夏合宿にて そして迎えた夏合宿の初日、事件は起こりました。夏合宿の初日は、朝から練習が続き、夕食後は自由練習というメニューになっていました。夕食が終わって、自由練習の時間になっても、新入部員の男子は誰一人として練習場に現れません。当時主将で3回生の河本さんが怒鳴ります。「いったい、どないしてるんや？ おい、2回生！新入部員の部屋を見て来い！」2回生が新入部員の部屋に行ってみると、新入部員はみんな部屋でお菓子を食べながら、のんきにテレビを見ています。「おい、お前らなんで練習に出てこへんのや？」「あれ、自由練習なんやから、出ようと出まいと自由なんやろ」「あほ！、何言うてんねん、出てくるのは当たり前で、何を練習しても自由という意味やろ。」「そんなもん、どこにも書いてへんから分からへんやん。」というような会話の攻防が続いたように記憶しています。しゅしゅ、練習に出た私たちでしたが、次の日から練習のメニュー表の夜の練習は「自由練習」ではなく、「強制自由練習」と書き換えられていました。河本先輩、その節はいろいろとご迷惑をお掛けしまして、すいませんでした。この場をお借りしまして、深くお詫びいたします。

1982 「第16回春季西日本戦」

大阪大学(前回5位) パートナー校 帝塚山大学・帝塚山短期大学

Cha-Cha-Cha I Love Her

背番号	リーダー名	学部年	出身高	パートナー校	学校年	出身高	種目
470	河本一成	医3	愛光	八木智子	帝大3	関女短附	R,Cha
471	藤岡良和	工4	岩国	山本敬子	帝短2	大阪女学院	"
472	熊代敬示	工3	大安寺	岸良子	帝大3	華頂女子	"
473	清水弘隆	経2	防府	奥田初子	帝短OG	東百舌鳥	"

プロフィール
暗い暗いと毎度おなじみの大阪大学が明るいうラテンに挑戦!

第16回 春季西日本戦エントリーメンバー

大阪大学	パートナー校	帝塚山大学・帝塚山短期大学
473 清水弘隆(経2)(防府)	中田賀子(帝大2)(賢明学院) R	奥田初子(帝短OG)(東百舌鳥) Cha
474 井口宏之(基2)(仙台二)	塩谷秀美(帝大2)(プール学院) R,Cha	
475 四方誠(基2)(清風)	平井悦子(帝大2)(北千里) R	岡本幸子(帝大2)(華頂女子) Cha
476 長谷川恭輔(工2)(宝塚西)	嶋谷厚子(帝大2)(生駒) R	中田賀子(帝大2)(賢明学院) Cha

第16回 春季西日本戦新人線エントリーメンバー

<新人戦>

第1位	相本茂・岡崎操子(広島大学)
第2位	竹森雅治・上本真奈美(広島大学)
第3位	中井敬・岡野光恵(神戸大学)
第4位	井口宏之・塩谷秀美(大阪大学)
第5位	佐原利幸・新井麻子(名古屋大学)
第6位	近藤市朗・青葉久美子(名古屋大学)

<団体戦>

第1位	京都大学	118点	第7位	愛知学院大学	42点
第2位	関西大学	92点	第8位	名城大学	36点
第3位	大阪大学	60点	第9位	立命館大学	28点
第4位	神戸大学	52点	第10位	広島大学	24点
第5位	大阪市立大学	46点	第11位	同志社大学	20点
第6位	名古屋大学	44点	第12位	大同工業大学	16点

<個人戦>

第1位	島田新一・山本千鶴(京都大学)
第2位	青井博幸・中西幸子(京都大学)
第3位	安楽睦大・三保智子(関西大学)
第4位	嶋谷大典・小畑ゆかり(京都大学)
第5位	熊代敬示・岸良子(大阪大学)
第6位	山本吉美・徳尾野みどり(大阪市立大学)

<フォーメーション戦>

第1位	京都大学	151点	第5位	名城大学	117点
第2位	神戸大学	136点	第6位	名古屋大学	116点
第3位	関西大学	129点	第7位	大阪市立大学	102点
第4位	大阪大学	126点	第8位	愛知学院大学	101点

1983 「第17回春季西日本戦」

大 阪 大 学		パートナー校 帝塚山大学・帝塚山短期大学	
部 長	長谷川 恭 輔	連 盟 委 員	井 口 宏 之
マネージャー	宇 野 紳一郎		
470	長谷川 恭 輔(工・3)(宝塚西)	平 井 悦 子(帝・3)(北千里)	
471	熊 代 敬 示(工・4)(大安寺)	岸 良 子(帝・4)(華頂女子)	
472	河 本 一 成(医・4)(愛 光)	中 島 美 里(帝・2)(家 政)	
473	井 口 宏 之(基・3)(仙台二)	岡 本 幸 子(帝・3)(華頂女子)	
プロフィール			

モダンの阪大既になく、^{うたがた}有象無象の輩なり。されば、この西日本ラテン戦。ラテン一族の本拠たるこの神戸にて、我らが^{おかしな}腐甲斐なき新人達に打ち代り、上級生がパワー見せます。

(鬼ヶ島に乗り込んだ桃太郎の心境の某阪大連盟委員記す)

第17回 春季西日本戦エントリーメンバー



大 阪 大 学		パートナー校 帝塚山大学・帝塚山短期大学	
部 長	長谷川 恭 輔	連 盟 委 員	井 口 宏 之
マネージャー	宇 野 紳一郎		
475	大 橋 浩(工・2)(豊 中)	河 原 容 子(帝 2)(田 辺)	
		渡 辺 真由美(帝 2)(信 愛)	
476	橋 本 茂 雄(文・2)(泉 陽)	沢 本 佳 子(帝 2)(相 愛)	
		河 原 容 子(帝 2)(田 辺)	
478	宇 野 紳一郎(工・3)(雄 城 台)	田 中 成 子(帝短2)(帝塚山)	
		新良貴 薫(帝 2)(帝塚山)	
479	鐘 井 大(経・3)(鞍 手)	朝 倉 貴 代(帝 2)(純 心)	
		植 田 薫 子(帝短2)(帝塚山)	

第17回 春季西日本戦新人線エントリーメンバー

1983-87 「サンバ参戦、そしてプロになる」

大阪大学(1987卒) 宮崎真人
(45年史より)

1. 新人戦時代に参考競技会のサンバ参戦

当時の関西では、モダン・ラテン両方をやっていて、ラテンはルンバ・チャチャの2種目でした。新人時代「将来的にサンバが新種目として入るということで、参考競技会として実施します。自由に参加してよいです。」という通知。嬉しがりな私は参戦したくてうずうずしていました。甲田桃子さんがパートナーとして参戦してくれました。サンバなんて先輩も知らない、プロに習いに行くこともできず、部室にあったラテン入門のみを頼りにステップを組んで競技会にでました。出ようと思った自分も無謀だけど、桃ちゃんも大したものです。…結果は全然おぼえてません。どうだったのでしょうか？桃ちゃん？

2. 2回生の夏の全日本はラテンで参戦

最初にカップルを組んだ容子先輩とはモダンのカップルとして期待してくれていたと思うのですが、組んだばかりの夏全日でラテンにでました。今思えばこれも自分の過信なのですが、容子先輩と組んだばかりの春の西日本戦ラテンで準決勝に入っていました。（この時準決勝と一緒に踊ったのが憧れの関大の木下・長谷場組、長谷場さんは後の田中英和先生の最初のパートナー）というわけで、ラテンいけると勘違いし（パートナーの力量によるところが多かったにも関わらず）、パートナーを説き伏せて無理無理、夏の全日ラテンに参加しました。知らないとは、怖いものです。東部のラテンのレベルを知りませんでした。すごく、レベルの差を感じたのを覚えています。これも結果は覚えていません。たぶん、惨敗だったのでしょうか。余談ですが、西日本戦ラテンは二年後、四回生の時、3位になりました。でも…優勝と準優勝は京大の三回生（豊泉と川口、名前も忘れないもの、やっぱり悔しかったのね）…

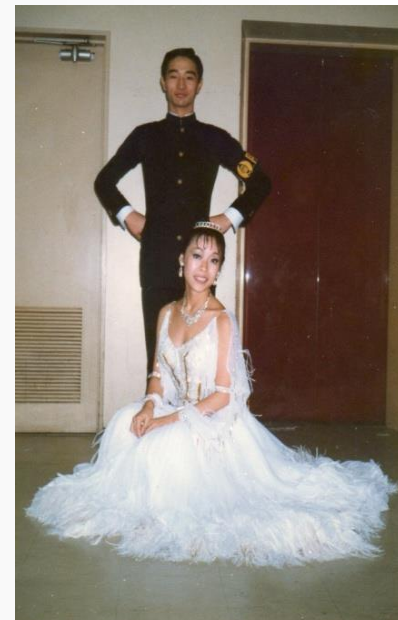
3. 練習会と反省会(?)

これは、無謀だった責任は先輩たちなのですが、僕と同期のなかじま中嶋(たぶん、下宿していたから)はこんな4年間を過ごしていました。

金曜日：阪大待兼山で練習→夕めし（主に王将）→徹夜で麻雀土曜日：そのまま帝塚山大学での合同練習→夕めし（よく梅田の丸ビルの近くの100円ラーメンのある中華屋に行ったわ）→徹夜で麻雀日曜日：ふらふら、解散、でもたまに仮眠のあとそのまま麻雀　これは、あくまで先輩の誘いを断れなくての生活でした。ねっ！河本さん、四方さん、井口さん！

4. プロになりました

日立製作所に入社し、茨城県日立市に飛びました。山路あおいさん（パートナー）とは二年目に結婚。入社3年目に本格的にアマチュアで活動を始め、結局、入社後7年を終えて会社を辞めてプロになりました当時、お世話になっていた教室の活気がすさまじく、一緒にやっていた仲間のうちプロの競技ダンスにつかったのは、我々含め5組でした。なるべくして、なっちゃったのかな。プロになってからの古いニュースですが、1997年にTVチャンピオン「ダンス王選手権」にでました。4組参加した内の一組でした。かなり、おちゃらけですが、一生懸命やったのでおもしろかったです。



2012「45年史編集後記」

2年前にALL大阪大学舞踏研究会OBOG会の再発足、そして、1年前に45年史の製作の話が持ち上がり、内容や構成についての話し合いを重ね、ようやく、45年史の発行に至りました。

そもそも舞研は何年に発足したのか？

といったところから始まり、OBOGの情報が乏しい状況下でしたが、とにかく作ってみようということでスタートしました。

しかし、スタートしてみると、新旧OBOGの皆様から原稿や多くの情報が集まり、その結果、各世代の活躍ぶり、ダンスおよび舞研に対する異常なまでののめり込み度などが伝わる非常に楽しい45年史になったと思います。

最近、学生時代の友人に、

「学生の頃は判らなかったけれど、いい趣味だね。」

と言われました。この言葉は最近強く感じていることで、学生時代に出会ってよかったと思っています。

今年のOBOG会総会で、世代を超えて楽しく踊っている皆様の姿を見て、あらためてダンスの素晴らしさを感じました。

さて、今回45年史を製作いたしました、不足しているところも多々あるかと思っています。

これを通過点として、今後、OBOG会を継続し、結束を強め、より充実した50年史に結びつくよう期待しています。

最後になり恐縮ですが、情報提供、原稿の作成に多大な協力を承りましたOBOG、現役の皆様へ感謝申し上げます。

大阪大学(1987卒)赤井健二
(45年史より)

2012

ALL 大阪大学舞踏研究会 45 年史



ALL 大阪大学舞踏研究会 OBOG 会編集
2012/11/01

1986-90 「現役時代を振り返る」 全日本戦優勝！

大阪大学(1990卒) 鈴木伸武
(45年史より)

OBOG会に何度か参加させていただき、現在の部の規模や関西、全日での戦績を聞くにつれ、四半世紀前(!)の我々の時代とは隔世の感があるなと実感しています。しかし冬の全日の後に現役の皆さんと飲む機会があり、皆さんのダンスにかける情熱や舞踏研に対する愛情、そして破滅的な飲み方といった「伝統」はあまり変わっていないと実感することも出来ました。あらためて赤井先輩に作っていただいた年表を拝見して、私が舞踏研で過ごした5年間(!?)には色々とエポックメイキングなことがあったと、様々な記憶が蘇ってきました。まずは西日本ラテン戦での団体優勝ですが、この時は私の代の主将の村田・平岡組が個人で優勝、小林・澤田組も入賞しています。私は個人的には応援以外はまったく貢献していないのですが、村田・平岡組のオナーダンスを見ながら、私の代の男は全員泣いていたと思います。試合で泣いたのは後にも先にもこの時だけでした。4回生の秋関モダン戦では、パートナーとして阪大3回生の松永とカップルを組み個人で優勝をさせていただき、また同期の森田・丸山組と当時3回生の塩田・和佐組も入賞阪大初の団体総合優勝で有終の美を飾ることが出来ました。実はこの時は、塩田・和佐組にワルツ1位をとられてしまい、個人戦の接戦にかなり焦っていて気が付いたら団体優勝していたというのが実情です。当時は部内でお互いをライバル視し切磋琢磨していたところがあり(今でもそうなのかも知れませんが)、このような内部の競争が団体戦での好成績につながったと思います。

全日本戦では3回生の時にスローフォックストロットで優勝させて頂きましたが、これはひとえに諸先輩が築いてきた足跡と、1年先輩のパートナーで今の妻の由香のおかげと感謝しています。私が入部した時には、当時3回生の尾崎先輩が帝塚山短大2回生の由香と組み京大の4回生を向こうに回して関西を制し、また夏の全日でも2位になるなど大活躍をされていました。また既に大OBだった熊代先輩が冬の全日のフォックスで2位になったテレビ放送のビデオを、OBながら数度の留年でまだ阪大にいた河本先輩の部屋で麻雀をしながら何度も見て、「お前らも全日での決勝進出や優勝を目指せ!」と檄を飛ばされるなど、身近に偉大な諸先輩がいて目標にすることが出来たという幸運がありました。さらに私が3回生になった時に、尾崎先輩が学業を優先されるとの事で退部され、パートナーだった由香が私と組むことになりました。既に由香は1回生の時から尾崎先輩と組み全日決勝で踊っており、技術や経験の面で全く私は役不足という状況だったのですが、当時の4回生の諸先輩の英断でのカップリングでした。ダンスはパートナーの技術が高い方が上手いと言われていたのですが、その後の1年間で身をもって実感した次第です。シーズン後半の西日本モダン戦では、当時全日本総合チャンピオンだった愛知学院大学の池田・早川組にまぐれで勝ってしまい(大阪での開催で審査員の先生方が池田さんのことを良く知らなかったらしいです)、その直後の冬の全日で私は池田組が出場するワルツではなくスローに出場しました。皆さんからは「勝ち逃げ」、「ヒット・アンド・アウェイ」など温かい(?)言葉を頂きましたが、当時はとにかく阪大舞踏研の名誉と卒業するパートナーのために全日での優勝にこだわっていました。今はダンスからすっかり足を洗ってしまったのですが、将来リタイアしたら今度は競技ではなく純粋に楽しむためにダンスを再開したいと思っています。また今後も現役の皆さんを応援したり、一緒にお酒を飲んだりする機会があれば参加させて頂ければ幸いです。



1987-91 「私はどのようにしてダンス部にのめり込んでいったか」 大阪大学(1991卒) 塩田 岳夫 (45年史より)

多くの先輩方、そして後輩たちがのめり込んでいった大阪大学競技ダンス部。それだけの魅力が確かにあったし、私もそれにとり憑かれた一人ですが、何に魅力を感じたかは人によって、時代によってさまざまだったでしょう。ここでは80年代後半頃現役だった私が、どのようにしてダンス部にのめり込んでいったかについて紹介します。

入学したばかりで麻雀がしたくてしょうがなかった私は新歓オリエンテーションでダンス部につかまった時も「俺ダンスより麻雀がしたいです」と言っただけでした。すると「あそう、うちには麻雀好きなひとがたくさんいるよ」とそのまま学館1階に連れて行かれ、当時OBだった前田太夫先輩らの卓に飛び入り参加させられました。結果は完敗で、「つえ～、さすが大学生は違うわ～」と感心したのですが、同時にここなら思う存分麻雀が楽しめそうな予感がして、それで入部を決めました。それからというもの毎週月・金のダンスの練習後、石橋の王将で飲んでから阪大坂の途中にあった私の下宿で麻雀するのが恒例となりました。前田さんは引退していたので練習には来ないけど麻雀には来てくれました。そんな先輩が前田さんの他にもたくさんいました。外出していても寝ていても全く部屋の鍵をかけなかったのでもいつでも誰でも上がれたし、よほど居心地が良かったのでしょうか、麻雀好きの先輩たちでいつも私の下宿はいっぱいでした。ドラクエⅢが発売されたときもカールルイスがベンジョンソンに負けたときも昭和天皇が崩御されたときも麻雀していました。何かあれば、〇〇記念麻雀、〇〇追悼麻雀などと称して麻雀し続けました。そうして2年生の夏には私の部屋で打った半荘数が月550回を超え、64時間麻雀を打ち続けるという記録もつきました。こうして麻雀ばかりしながらも先輩たちとダンスビデオを見、ダンス部にまつわるいろんなエピソードを聞いているうちに、いつしかダンスの魅力に目覚め始めます。

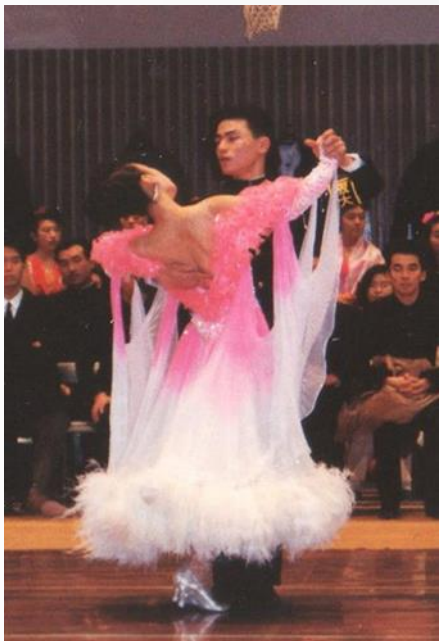
3年生になるころには麻雀よりもダンスに本気になっていました。「尾崎のナチュラルターンはすごかった。グオオーって、まるでジェット戦闘機の離陸のようやった」麻雀しながらさんざん聞かされたこのセリフに憧れ、尾崎信司先輩のようなナチュラルターンで勝つことが目標になっていました。尾崎－小野組が決勝で全種目旗上げオール1位を並べた86年秋関モダン戦のビデオが好きで、「すげえ。俺もあんなふうにならなうに1位を並べてやる」と何度も何度も見返しました。なかなか結果が出ないまま迎えた3年生の冬の全日本戦、ワルツ決勝ソロで天理大学・徳山－桜井組のナチュラルターンを見た瞬間は忘れません。「あっ！」－私なりにダンスを理解した一瞬でした。「そうか！ダンスはこうやって踊るものなんだ！」そして1週間後の秋関モダン戦、そのとき理解した感覚で踊ります。結果はW・F 1位、T・Q 2位で個人総合2位（塩田－和佐組）。1位に同じ阪大の鈴木－松永組、5位に森田－丸山組が入り、なんとラテン・フォーメーション戦でのビハインド約70点差をひっくり返し、大逆転で89年秋関団体総合優勝を達成しました。当時全日本を制覇していた京大をおさえての、まさかの団体優勝でした。（ちなみに私が在籍した4年間で団体優勝したのは88年西日本ラテン戦とこの時だけです。）

その後、私は全日本では結果が出せず悔しい思いをしました。しかし！！熊代さん、尾崎さん、鈴木さんら連綿と続く阪大モダン陣のエースとして全力を尽くせ、「塩田さんのダンスが目標です」といつてくれた後輩たち（山村原延ら）にも恵まれ、いつかのめり込んでしまっていたダンス部生活でしたが、最高でした。



1989-93 「ダンス三昧な学生時代をふり返って」 帝塚山大学の共学化、大手前大学の参加

帝塚山大学(1993卒) 伊熊知子
(45年史より)



リーダーは同期の大矢さん

私が入部した89年は帝塚山大学が共学化して3年目でした。このころ、連盟では本来女子大学のはずであるパートナー校が共学であることが「帝大問題」と言われ、大きな議題となっていました。帝塚山大学は独立するのか？阪大のパートナー校はどうするのか？といった話が論じられていたのです。そんな中、私たちが執行部の年に、大手前女子の井上えりちゃんが個人的に問い合わせきて入部してくれたことがきっかけとなり、大手前女子がパートナー校になっていったと記憶しています。

私個人の記憶を辿ると、ダンス部の入部は入学前から決まっていたようなものでした。大学案内の中に写真と共に紹介されていた「競技ダンス部」を見て、ぴんとくるところがあったのです。

実際始めてみると楽しくて、とても自分が踊れるようになるとは思えなくても、少しでも先輩のように踊ってみたいと無心で練習していました。当時のフロアには素晴らしい成績を残してなお現役のあこがれの先輩がたくさんいました。

当時の通例からすると時期遅く、私たちの代が正式にカップルを組んだのは2回生の夏でした。スタンダードとラテン、どちらも続けたかったので、阪大のカップルでは初めてビギンへ通い、スタンダードは中村先生に、ラテンは奥村先生に師事しました。最終的にはスタンダードを専門としましたが、どちらもレッスンさせてもらったおかげで、ラテンでも成績を残すことができて、また、たくさんの競技会出場の機会をいただきました。

もっとも印象的な競技会は2回生の秋関モダンで初ファイナル5位入賞だったときです。素晴らしい先輩たちに混じってなぜか5位に私たちがいる。なんで？という不思議な気持ちで、そのあとのフィナーレを見ていました。

番狂わせ過ぎて、Aチーム登録していなくて団体成績には貢献できず、団体優勝を逃してしまうというオチつきの話。

その後、全日や西日本、全関など成績は上がり、リーダーや師匠、仲間に恵まれて、充実した4年間でした。無心で日々ひたすらに前に進んでいけば、結果はついてくることをダンスで学びました。

現在、かなりの時を経てダンスを再開しました。久々の競技会は楽しく、充実していました。競技を引退したこれからもダンスとは仲良く付き合いたいと思います。このOBOG会をきっかけとして、また当時の交流を深めたり、時代を超えて現役の皆さんの応援ができれば幸いです。素晴らしい機会をありがとうございました。

1990-94 「人生の半分踊ってます」

大阪大学(1994卒) 山村原延
(45年史より)



夏合宿のホテルセルリアンアルペン玄関にて

舞研に入ったきっかけは、麻雀でした。高校時代に麻雀に明け暮れていた私は、なぜか同級生となった高校の一年先輩である渡辺さんにつれられて、サーオリの日に舞研に顔を出したのです。もともと大学でまじめに部活をやろうなんて考えは毛頭なく、バイク部にでも入ってふらふらツーリングでもしようと思っていました。ただ、すでに入学式の日に舞研から声をかけられていた渡辺さんから、「昼飯がたべられるらしいよ」という情報を得て、昼飯目当てに立ち寄ったのです。女性の先輩方の手作りのおにぎりや料理をおいしくいただき、きれいな先輩方とのトークを、男子校出身であった私は存分に楽しんでおりました。と、そこでふと「麻雀がしたい」と口走ってしまったのです。すると、後に私の初代パートナーとなる宮島さんが「あんたら、麻雀でさんの」とノリノリでおっしゃられ、すかさず塩田さんと前田さんの前に席が移りました。こわもてのお二人に正直少しびびったのですが、渡辺さんが「麻雀で負けたことがない」とわけのわからないことを口走り、結局雀荘に行くこととなりました。（なんでも、塩田さんは本当はデモをする予定だったようですが）そこで、勝たしてもらい

（渡辺さんは案の定負けました）、「とりあえず、しばらくは顔ださんといかな」と思いました。ちなみに、この時点でなにをするクラブか全くわかっていませんでした。帰り際に、次の月曜日、NO.9でデモがあるので見に来るように誘われたので、顔を出し、そこで塩田さんと和佐さんのワルツを見ました。「なんかようわからんけど、とにかくすごい！ かつこいい！」と思いついて、「俺もこんな風に踊れたらかつこよくなれるんじゃないか」と考え、そのときほぼ入部する決心がついていました。

（ちなみに、それは私の勘違いで、後に塩田さんがかつこよかっただけであることが判明しました）

そして、気がつけばナチュラルターンを踊っていました。シャドー戦で予選敗退した私は、たいへん悔しく思い、だんだんとダンスにのめり込んでいきました。その後、新人戦は快調で、デモも踊らせてもらいました。そして、初めてのパートナーさんとして、宮島先輩と踊らせていただくこととなり、団体戦でも準決勝にあがれるようになって、なんと2回生の夏に全日の出場をさせていただきました。フォックスのステップがなく、一週間前に守谷先生に組んでもらったルーティーンを夜の道路でシャドーしていたのを思い出します。

早いうちに全日本という舞台を経験させていただいたことが、後の舞研人生に大きな影響を与えました。宮島さんにはいくら感謝してもしきれません。2回生の冬から、パートナーが後輩の篠原に変わりました。当初は成績がなかなか出ず、宮島先輩に踊らせてもらっていたんだなあーと痛感しました。3回生の秋モでクイックが2発落ちだったときには本当にへこみ、やめることさえ考えました。ただ、そこであきらめなかったのがよかったのでしょうか。4回生になると、七帝戦でタンゴ、春関戦でワルツと続けざまに優勝させていただき、続けていてよかったと心から思いました。残念ながら、全日では成績は残せませんでしたが、早いうちから全日本を意識して練習していたことが幸いしたのだと思います。その後、大学がどーしても残ってくれと言うことで、結局7年間通うこととなりましたが、OBとして舞研に顔を出すことで非常に楽しい学生生活を送ることが出来ました。

就職してからもアマチュアでダンスを続け、パートナーさんは何人か変わりましたが、このたび、今のパートナーと結婚する運びとなりました。これも、ひとえに舞研に入ったからだ感謝しております。ずっとダンスのことばかり書いてきましたが、海の家、コンパ、麻雀、その他のエピソードは数えればきりがありません。それはまたの機会として筆をおきたいと思います。いままで、支えてくださった諸先輩方、一緒にがんばってきた同期、遊んでくれた後輩たち、皆さんに感謝いたします。

1993-97 「舞研の思い出・フィナーレ3回」 大手前大学での練習開始

大阪大学(1997卒) 石村貴志
(45年史より)



94秋 フィナーレにて



96秋 フィナーレにて



パートナー澤田さんと

今となっては舞研に入っただけはあまり覚えてなく、気が付いたら学生会館で練習をしていたような気がします。おそらく一つ上の先輩の女子部員に勧誘され、とても雰囲気の良いサークルだと思いそのまま居ついてしまったのだと思います。また当時は授業そっちのけで練習をしたり、プロのレッスンを受けるためのレッスン費を稼ぐためにバイトをしたりと、ダンス中心に生活をしていたような気がします。

当時は帝塚山大学、帝塚山短大、大手前女子大の3校をパートナー校として主に週3回の練習会を行っていました。練習場は阪大学生会館No9と帝塚山大学剣道場を使用していましたが、また帝塚山大学の共学化に伴い、大手前女子大の女子部員の比率が高くなってきたこともあり、この頃から大手前女子大の体育館も練習場として使用するようになったと思います。

学連の動きとしては、ラテンの成績種目にパソドブレが追加され、モダンの競技衣装として燕尾服が導入されたこと挙げられます。

また、この頃インターネットが普及し始めた時期で、阪大舞踏のホームページが立ち上げられたのもこの時期だったと思います。95年の1月に阪神淡路大震災があり、今のように携帯電話が普及していなかったので、部員の安否確認に非常に時間がかかって気をもんだことを覚えています。

個人的な思い出としては、1回生の夏にいきなり4回生の先輩をパートナーとして付けていただいたため、その秋の団体戦におぼつかないベーシックステップで出場したことがあります。1回生でいきなりフィナーレを経験できたもの良い思い出です。また、翌年の2回生のときも4回生の先輩とカップルを組んだため、自分が4回生の時と併せてフィナーレを3回経験するというのも珍しいと思います。写真の1枚目は2回生のフィナーレ、2枚目は4回生の時のフィナーレの時です。3枚目は4回生時のパートナー澤田絵里奈さんと。

1997-2000 「舞研と私」①

大手前大学(2000卒) 岡崎ひろみ
(45年史より)

今から10数年前、大学生活というものにあまり希望も持てずに大手前女子大学に入学しました。あの忘れもしない阪神淡路大震災の1年後ということもあり、まだ大学内はプレハブの校舎で大変なところに入學したなあという気持ちでいっぱいでした。小学生のころからバレーボールというバリバリの体育会系に所属していた私はもちろん大学でもバレーでしようかなと体育館を覗きに行きました。こそと覗いた大手前のバレー部はみんなとても楽しそうでサークルのようでした。バリバリで育った私はがっかりして体育館を後にしました。ひとりどろどろ歩いていたところ新歓をしていた先輩に、そこでダンス踊ってるんだけど見に来ないと声をかけていただき、まあ暇だし見に行ってみるかな〜とついて行ったことが私と舞研との出会いでした。

狭く白いプレハブ教室のなかで見たものは、見たこともないようなドレスを着た先輩が踊っていました。しかも女子大に男がいるではありませんか……。どういふこと？？と思って席に着き話を聞かせてもらった遠い記憶があります。ただここからどうやって入部することに決めたのか、気が付けばもう阪大と一緒に勧誘していたように思います。私たちは入部当初、大手前の女子がとても多く、20人を軽く超えるくらいいました。ですが男子はというとその時3人くらい……。なので一回生の私たちも阪大に行って一緒に勧誘をしたことを覚えています。私たちが新入生だから一緒に入らない？？なんて男子学生に声をかけていました。結局、一緒にフィナーレを迎えた同期は男1人、女3人ととても少ないさみしい代になりました。

こんなですが、私の中では舞研にいた4年間は相当濃い内容となりました。もちろんこれだけ女子が多い中カップルを組めるとは同じ代だけでは無理だということで、女子シャドー戦をすると聞いた私たちはひたすらシャドーしました。2回生の先輩も一緒にするのでカップル再編成もあるからと言われリーダーができる可能性が増えたので俄然ハリキリ強練がない日でもNO.9が使えるときは授業をさぼって練習に行っていました。必ず誰かがいてくださり、たくさん教えてもらった記憶があります。そして1回生の夏に1つ上の先輩とカップルを組むことができてとてもうれしかったです。もちろん大手前では前年度の震災の影響で1つ上の先輩がいないということもあり、

2つ上の先輩が就職活動に入る時に大手前で競技ダンスの部長となりました。これがとても大変でした。まだ入部して1年たらずでの七帝戦。会場は大手前の体育館での開催となりました。この時大手前は女子大。女子大に強制練で男性が入るだけでも学校側から、入る全員の名簿を提出するように言われ、校門に入る際は必ず守衛室に声をかけてチェックをしてもらうといったことをしている頃でしたので、この七帝戦で不特定多数の男子学生が大手前に入ることが問題となり、学校側とは何度も話し合いをしました。やっと許可していただいた後、準備をする段階でもまだ1回生の私は、先輩方に指示をするのもなかなかできずで、罵声を浴びたりして泣きながら準備をした記憶があります。でも無事に七帝戦が終わったときは、ほんとに何もなくよかったと胸をなでおろしました。2回生、3回生とダンス漬けの日々を送り、時間は目まぐるしく過ぎていき、気が付けばカップルを組んでいた先輩がフィナーレを迎え、自分は2回生と組むことになりました。4回生といえば就職活動です。ですが就職活動で今踊り盛りなこれからを迎える2回生の練習時間を潰してしまうようなことはしたくないと、あえて自分は就職活動をしないことに決めました。まあなんとかなるだろうとやはりダンス中心、舞研中心で回る毎日です。4回生になった自分は男が一人しかいない代なので、主将にだけ負担になるのは申し訳ないといふだけ男らしく頑張っていました。まあできたかどうかはわかりませんし、迷惑をかけてたほうが多いかもしれませんが気持ちはそうでした。

4年間でいろいろ経験をさせていただきました。つらいことやうれしいこと悲しいこともたくさんありました。そして舞研の仲間を亡くしてしまったことも私にとってはつらい思い出ですが、でも4年間舞研で生活をさせていただいて心身ともに強くなった気がします。自分がどのように振る舞っていけばいいのか、どんな対応をしたらいいのかなど学生生活だけではわからなかったような経験もさせていただいたと思います。自分がフィナーレを迎え、卒業し、少しの間ダンスからも離れていましたが、気が付けばまたダンスの世界にどっぷりはまっています。どんなにしんどくても、どんなに辛くてもダンスを止めようとは思いません。きっとこれからもそうだと思います。ダンスは生きていくうえでなくてはならないものとなり、なんとかこの道を究めていくように今はひたすら努力の毎日です。でもこの学生時代があったからこそしんどくてもなんとか結果を出そうと必死になれる自分がいます。そのことに感謝して、また明日への道につなげていきたいと思っています。

1997-2000 「舞研と私」②

大手前大学(2000卒) 岡崎ひろみ
(45年史より)



左からチャックウィル
コ(パーコ)関取(私)
けーこ(なんだっ
け...) 夏の強化連
で前田大先輩につけ
ていただいたありが
たいあだ名...



大手前での七帝戦



とてもがんばってく
れたじいには感謝

1998-2002 「生まれ変わっても阪大ダンス部に入りたいですか？」

大阪大学(2002卒)郷原拓男
(45年史より)



パートナー岡崎さんと



同窓会



現役のとき



「君の背中まっすぐだねえ！ ちょっとダンス部に見学に来てみない？ 夕食もご馳走するし」あれは丁度1998年4月。鹿児島から大阪に来て、ようやく大学生となったものの、見知らぬ人ばかりでホームシックになりかかっていた時。満面の笑顔で声をかけてくれたのが、手島先輩と弘中先輩。そして部室で待ち受けていたのが新井野先輩でした。部室に足を踏み入れた瞬間、受験で覚えた「鹿鳴館」の風景が突如眼前に現れ、現世のユートピアかと思ひました。大学入学までは女性との会話経験すら乏しかった私は、「ジルバを踊ろう」と女性の先輩から何気なく手を握られた瞬間、急に顔が火照ってきて、それを悟られないよう隠すのに必死でした。まさしく「この日」こそ比類ない濃密な大学生活がスタートした瞬間であり、人生の岐路であったとは、当時の私には知る由もありませんでした。

4年間の激動のダンス部生活を終え、目の当たりにした数多くの伝説を潜り抜けて、私は清々しく晴れてダンス部を卒部しました。ダンスには何の未練もない。金輪際ダンスとの関わりはなくなるだろう。さようなら愛しのダンスよ、と思いながら。ただ半年も経たないうちに気づくと足がダンス教室に向かっており、会社勤めをしながらダンスを再開していました。またずぶの素人の嫁とダンススタジオに行き踊った事もありました。ただ何か違いました。何かもの足りなさ、うら寂しさが漂いました。ホールドにバケツをぶら下げてくる先輩もいなければ、試合で絶対に負けたくないライバルもいない。仕送りが底を付く月末に決まって猫なで声で近寄ってくる後輩もいなければ、大会に向けて泣きながら練習をするパートナーもいない…。人間とはかくも裏表があって、かくも情緒が不安定で、かくも自己中心的で、かくも腹黒いのか、とドロドロした感情の表出する修羅場も特にない…。

大好きな「ダンス」を踊りながらじっくりと自分の気持ちを分析すると、私は「ダンス」以上に「大阪大学舞踏研究会」が大好きだったのだと痛感しました。「もう一度生まれ変わってもダンス部に所属したいですか…？」と聞かれれば、私は自信を持って即座に答えます。「私はダンサーです！ 大阪大学舞踏研究会のダンサー

になります！」と。青春時代の1ページに燦然と輝く愛すべき大阪大学競技ダンス部が未来永劫後輩の学び舎として存続し、ますますOBOG会が発展する事を遠く鹿児島より祈念しております。

1999-2003

「日本に来て20年、そしてダンスとの出会い。」

大阪大学(2003卒)山分ネルソン祥興
(45年史より)

僕は、両親が小さな菓子屋の屋台を営み何とか生計を立てる、マレーシアの貧乏な家庭で生まれました。その頃、英語版ドラマ『おしん』を見た時、胸を打たれました。戦後に資源、食物さえなかった日本は、たった三十年で世界トップクラスの経済大国に躍進されました。それに比べ石油、熱帯雨林など豊かな資源に恵まれているはずのマレーシアは、未だに発展途上です。僕は日本に、憧れました。高校の時、両親に日本へ留学したいと伝えたが、母は心配しました。それもそのはず、僕はもちろん日本語ができず、貧乏な両親は僕に仕送りする余裕もないわけです。

しかし、僕は母に言いました。「日本は、戦後すぐに先進国に変身、大きなジャパニーズ・ドリームを見せてくれました。そんな日本で、何か自分のチャンスを見つかると思います」と。結局、両親は借金をし、日本への航空券代と、日本語学校の三か月分の授業料を調達してくれました。もちろん航空券は、片道分でした。そうして僕は1992年、18歳で、念願の日本留学を果たしました。最初は東京の日本語学校に通いながら、生活費と大学進学費の為に、毎日奴隷のように、深夜までバイトをしていました。勉強できる時間といえば、通学、通勤の電車になっている時と、週1回のバイトの休みの日しかありませんでした。結局、医学部への受験を諦めました。しかし運がよく、翌年に北海道大学の薬学部になんとか進学できました。大学に進学できてほっとしたもの、今度は別な、‘超’がつく難関に待ち構えられていました。それは、アルバイトが見つからないことです。札幌では、外国人に慣れないためか、市民は微妙に外国人に対して恐怖心を持つためか、僕は‘外国人留学生’であるために、アルバイトに全く雇ってもらえませんでした。

結局お金もなく、お米さえ買えずに、パン屋で見つけた安売りのパンの耳を買って、約1ヶ月それで空腹に耐えました。やっと見つけたバイトは、ボーイズバーという飲食店でした。バーというよりも、ホストクラブの安物版って感じでしょうか。お客さんからもらったお酒をどんどん胃に流し、酔うとトイレで吐き、その後また笑顔で接客、飲んでまた吐く夜が続きました。そんな僕を助けてくれたのは、社交ダンスでした。当時の北大の競技ダンス部の先輩に勧誘されました。‘ダンスできたら、おいしいバイトあるよ’という誘惑にすぐ負けました。正直に言うと当時の気持ちは、ダンスなんてどうでもよかったです、むしろ、興味ありませんでした。でもそれでアルバイトができて、僕がサバイバルできるのであれば、なんでもする、という気持ちでダンス部に入りました。それが、僕とダンスの出会いでした。ダンスをしている日々は、非常に楽しい思いになりました。また、ダンスのおかげで、ダンスホールでのバイトが見つかり、生活はなんとか維持できました。大学三年生の時、日本ロータリークラブから、その後、当時の文部省から奨学金を頂きました。何とか少し余裕が出て、ちょっとは学生らしき生活ができました。しかし今度は、諦めていた、医師になりたいという夢は再燃してしまいました。結局、当時の薬剤師国家試験の勉強や、医学部への再受験のために、大学3年のとき、仕方なくダンス部をやめてしまいました。なんとか、運がよく、その後は大阪大学の医学部に合格できました。ダンスへの未練につられ、阪大の舞踏研究会に入部しました。でも北大にいたときも2、3年間ダンス部に所属していたため、連盟の規定によって、大阪では殆ど試合が出られませんでした。それでも、ダンスを楽しくできたことに感謝しています。ふと思えば、本日は産婦人科医師として、医療現場の仕事をして充実した毎日送れたのは、ダンスと出会って、サバイバルできたお蔭でした。これからもダンスを楽しんでいきます。ちなみに今はラテンのパートナーを募集しています。僕は38歳、身長163cm、やや筋肉質、ラテンが大好きです。ご興味のある方はbluesky9973@gmail.comまでご連絡下さい。



2000-2004 「自分にとっての競技ダンス」

大阪大学(2004卒)早川 生馬

私がダンスを始めたのは、祖母が当時はまっていた社交ダンスを孫にもさせようと執拗に勧めてきたのがきっかけでした。中学生の頃に勧められ、最初はまったく耳を貸さなかったものの、高校入学を果たした開放感から、「新しいことを始めてみるのもいいかもしれない。」と、祖母が通っていた社交ダンス教室に入りました。マンボ、ジルバから習い始め、徐々にスタンダード、ラテン種目の足型も覚えていきました。

大学に入る頃には、パソを除くベーシックは一通り覚え、大学に社交ダンス部があることを知った私は意気揚々とサークル見学に訪れました。そこで見たのは早崎・引田組のラテンで、正直「なんなんだこれは」と思いました。これまで目にしてきたのはおじさん、おばさん同士の“社交ダンス”で、競技ダンスとの出会いはこれが初めてでした。これまで習得していたのはあくまで“足型”のみで、なんのアドバンテージも無いことに衝撃を受けましたが、この時点で踊ることは好きになっていましたので、そのまま入部しました。とにかく練習が楽しく夢中になり、新人戦を戦っていくうちに勝ちたい気持ちも強くなりました。

パートナーは当時4回生の小林さんが引退し、シングルとなった3回生の穂坂さんになりました。自分の希望でもあったので、さらに練習に打ち込みました。（こののめりこみの裏側で学校の成績がみるみる落ちていったのは言うまでもありません・・・）その甲斐あってか2回生の夏全で準決、全関西で決勝と、当時の大先輩である郷原・荒尾組や堀川・武田組とのしのぎを削ることができ、勝負の楽しさにのめり込んでいきました。

その後は穂坂さんが引退したため、1つ下の門中さんとパートナーを組み、3回生時は立命館大学の谷口・中谷組、4回生時は関西大学の橋本・西前組や神戸大学の若井・高見組らといずれの学年も優勝を争うことができ、学連での充実した競技ダンス生活を送ることができました。ただ、後半は自分の伸び悩みも感じ始め、単に楽しめるダンスではなくなっていき、社会人になってからは競技ダンスを離れることになりました。

ダンスから離れて10余年、同回生だった妻円と踊り始めました。離れていると踊りたくなるもので、おかげで始めた頃の「踊ることの楽しさ」を再確認できました。今後は末永く楽しめればと思っています。

最後に、現役当時から同回生にはたくさん迷惑をかけましたが、卒部後もときどき会ったりできるいい仲間に出会えたと思っており、感謝しています。また、練習会や試合等で林田先生、倉田さん、山村さんを始め、諸先輩方にはたくさんのアドバイスをいただきました。ありがとうございました。



2001-2005 「ダンスとの出会いから別れ」

大阪大学(2005卒)菊地有理
(45年史より)



私の舞研生活は、「大学ではダンスがやりたいけど、ヒップホップ系のサークルののりにはついていけない・・・」と新歓の時期に感じていたなかで、たまたま通りかかった舞研でジルバを踊ったことから始まりました。出来なかったことも、黙々と練習をすれば出来るようになる、というところが私の性に合っていたのか、結構のめり込んでいました。2回生からはラテンへ進み、塚本組に習いに行きながら、一見順調に見えたカップルは、3回生の夏全に出る直前にリーダーが資格試験のために舞研を辞めてしまい、全日には一度も出ることができませんでした。そこからはシャドウで黙々と練習したり、後輩の指導をしたり・・・ということで半年が過ぎました。4回生では2回生のリーダーとカップルを組み、楽しく試合に出ることができました。彼は、私にきついことを色々と言われながらも、本当によくがんばってくれたと思います。

最後の1年は、体調不良に見舞われたこともありましたが、競技会に出られるというのが、私にとっては本当に楽しかったです。悔しい思いや辛い思いもたくさんしましたが、「ダンスが好き」という想いは強く、大学の思い出のほとんどはバイトとダンスという、典型的な舞研人ようになってしまいました。夏や春の合宿や、海の家も楽しかったです。（ちなみに海の家はもう閉鎖したみたいですね。）

大学時代に不完全燃焼になってしまったおかげで、ダンスへの想いが増した私は、プロ転向を視野に入れ、卒部後はアマチュアで競技会に出たりしていました。その中で色々あり、札幌でプロとして競技会デビューしたのは、2006年のことでした。見知らぬ土地で、昼は派遣で働き、夜に練習するという生活でした。競技会の結果は、まずまずで、10月の大会では、北海道で4位でした。その後も、色々ありながらも続けていたのですが、これまた日本インターの北海道枠での出場権をもらったのに、直前でカップル解消することになり、私のダンス人生はこういう運命なんだと思いました。その後は、オーナーの陰謀（！）で別のリーダーを募集することもできず、半年だけ続けて私のプロとしてのダンスライフは2年で幕をおろしました。当時は辛いこともたくさんありましたが、今となってはすべていい思い出です。

やっぱり今でもダンスは好きなので、またやりたい！と思うのですが、札幌には練習場がなく、習いに行くしか練習することも出来ないし、北海道のカップル事情的に、もうリーダーを見つけるのも難しいし・・・と、やっとあきらめがついてきたところです。そして、サルサでもやってみようかなと思う今日この頃です。

2002-2006 「Enjoy ・・＊」

こんにちは！皆様、お元気ですか？

私は大手前大学でデザインを専攻しながら、阪大舞研を卒業しました。今回はこのような機会に声をかけていただいたので、自分なりの「表現の場」として楽しませていただきます！

ダンス部での4年間は、人って面白いんだな～、楽しみたいと思えばいくらでも楽しめて、美しい人はなんぼでもいはるし、カッコいい人も…。そんな、楽しい事・面白い事の視野を広げることができた時間でした。もちろん、バイトは大変だし、ダンスも成績が出なくてたまには落ち込むこともありましたが。素敵な先輩方に見守ってもらえて、助けて頂き、応援し、面白がって転がっているうちに卒部した、というところです。

■舞研myリスト

勧誘、へんで素敵な先輩・同期（笑）、燕尾服のカッコよさ、カツミヘア、痛む髪の毛、飲み会、Vタイ、シャドー戦のレオタード…、海の家（海ホタル！）、夏合宿/長野、鐘の鳴る丘、三角関係の仲裁等ゴタゴタ・イライラ、カップル編成、仲秋プロとの出会い、試合にマイドレス、アマ戦出場、ディズニーダンスバイト、秋関モダン個人ファイナル進出・団体優勝！！優勝カップにビールで回し飲み！冬全セミファイ、リーダー卒部・1回目のフィナーレ、2回生リーダーと組んで秋モ・セミファイ、2回目のフィナーレ。皆様もご自身の思い出と重ねて頂けるかなあと思い、ざっくりUPしました！舞研に入ったことで得た「面白い」は、ずば抜けていました。同時に人にも恵まれていたと思います。本当に皆様に感謝申し上げます。

これからも、どんどん積み重なる自分の時間、そして皆様の時間。つらい事もありますが、面白いと思えることをして、素敵な人と、素晴らしい時間を皆様が積み重ねていかれることを願います。

そんないろんなことを面白がっている私のサイト。デザイナーをしています。

<http://kuroineko.ifdef.jp/> DM、画像修正等もご連絡ください～♪

皆様も、お元気で！！沢山のこと、面白がって楽しまれてください

大手前大学(2006卒)榮美穂 (45年史より)



↑同窓会にて。初対面の塩田さんの魅力にやられました/笑



2004-2008 「舞研の思い出」

卒部してから、あっという間に4年が経ち、すっかり踊る機会もなくなりましたが、今でも街中や店内で試合でかかった曲や練習曲を聴くと密かにカウントを取ったりしてしまう自分がいます。

わたしたちの学年は今の大人数になる前の最後の学年なので、執行部はものすごく少人数なのに後輩たちがどんどん増えていて、とても苦勞した覚えがあります。今ではかわいい後輩たちばかりですが、現役の時はあまりの人数の多さに参ってしまったことも・・・時には悩み事が多すぎて、主将の友草さんと二人でお祓いに行こうかという話をしたこともありました。

でも今思えば、そうして悩みの多い学年だったからこそ一緒にフィナーレを迎えた同期とのつながりは今でも続いているし、この先もずっと仲良くしていきたい人たちばかりなんだとも思えます。

現在の舞研は人数が増えて団体として大きくなったことはとてもいいことですが、逆に仕事が分散してしまい、ひとりひとりの責任感とか舞研特有の悩みを抱えることは少なくなっていると感じます。

カップル間の悩みはもちろん、会議で発言することや自分たちで内容を考えて練習会を作っていくこと・・・他のサークルや部活ではおそらく経験できないことばかりです。どうせおなじ4年間所属するのなら、舞研というものを骨の髄まで楽しんで欲しいです。

今年で阪大舞研45周年ということで、わたし自身は卒部したばかりの若輩者ですが、立派に社会で活躍されている先輩たちに続けるように努力していかなければと思っています。

いつか、歳をとって、生涯のパートナーとダンスを踊ることを夢見て。

**大手前大学(2008卒)榮美穂
(45年史より)**



2012 部長「現在の舞研～現役部長より」

現在、阪大舞研には80名近くが在籍し競技ダンスに打ち込んでおり、競技会では西日本屈指の強豪校であり先日挙行された夏の全国大会では小林・鎮西組がスタンダード部門で3位に入賞するなど団体・個人共に優良な成績を収めています。

私が考える阪大舞研の繁栄の要因は部員の活気にあると考えます。活気の原因としては部員が各自それぞれの目標に向かって精一杯努力しているということや、部員の人数が多く仲間と共に切磋琢磨しお互い高めあうことができたり、先輩に目標へ近づくためのアドバイスをもらえたりする環境が整っていることが挙げられ、実際舞研の活気を理由に入部する新生も非常に多いです。

しかし時代や舞研の変化により新しい問題も発生しています。例えば学生の競技ダンス人口が減少しているということです。阪大舞研もその例外ではなく、数年前まで100人を超えていた部員数も現在は約80人と減少傾向にあります。

他にも人数が多いことで全体の関係性が希薄化してしまい統率をとることが難しいことがあります。

このように阪大舞研は新たな問題に直面しています。したがってこれからはOBOGさん方から引き継いだ伝統を守りつつ、臨機応変に問題に対処して活気を維持・発展させるべく努力したいと思います。

OBOGさんにはフォーメーションドレスを新調していただいたことを始めた皆さんの援助をしてもらったり、練習会・試合に訪問・応援に来ていただいたりなど現役生の活動を様々な面から支えていただいています。

現役生はこれからも舞研部員が魅力的で入部したいと思えるような阪大舞研づくりに尽力しますので、OBOGさん方にはこれからも引き続き現役生へご助言をいただいたり、現役生を見守り、応援したりしていただければ幸いです。

大阪大学(2013卒)嘉藤隆一郎 (45年史より)



2012「創設45周年目の部員として」

「経験は人をつくる」という言葉がありますが、10代の終わりから20代のはじめにかけての多情多感な時期での経験は特に大きな影響力を持っているように感じます。子どもと大人の狭間にいる部員たちは、この舞踏研究会での様々な経験を通じてひとりひとりの人間としての基盤を完成させ、その先の未来へと繋げていきます。ここでのひとつひとつの経験が行く道を照らす光となって、私たちの人生を豊かなものへと導いてくれるのだと、卒部された先輩方の眩しい姿から希望をもらっています。

45周年という大きな節目を迎えるにあたって改めて思うことは、ふたつあります。ひとつは、閉鎖的な空間や煮詰まる関係、特有の規則など、伝統と情性だけで連綿と続けていけるような簡単なものではないということ。もうひとつは、そういった煩雑なものを超える、他では得難い素晴らしさがあるからこそ、輝かしい歴史を積み重ねていくことが出来たということです。歴代の諸先輩方の熱い御指導、また長年に渡る多大なる御後援のおかげで、いまや大阪大学は関西を代表する伝統ある輝かしい部として認められています。しかし、部員数の増加による団体規模の拡大とともに問題は多様化し、ただ伝統に縋りつくだけでは綻びが出てくるようになってきました。伝統に追随していくだけの受身の姿勢ではなく、各部員が主体的にもう一度受け継がれてきた伝統の意義を見直し、私たち自身の手でよりよいものに練っていく努力が必要とされています。

弛まぬ努力や人との繋がりによって齎される充実した時間のなかで、同期・上級生・下級生・他大学のライバルなど、私はさまざまな「縁」に出会いました。それはきっと、45年前から変わることのないここでしか手に入らない貴いものであり、この部が長年続いてきた理由に違いありません。現在在籍している部員だけではなく、この先入部してくる未来の後輩たちが、私たち同様に素晴らしい縁を手にし、充実した4年間を送ることができるよう尽力することこそが、なにより受け継ぐべき伝統だと考えます。

大阪大学(2013卒)福本伊歩
(45年史より)



年表
(1949-1991)

年	トピック	概要
1949	日本学生舞踏連盟創立	関東八大学(東京大学、慶応義塾大学、早稲田大学、明治大学、法政大学、立教大学、工学院大学、日本大学)の主将連絡会議にて創立。
1962	日本学生舞踏連盟発足	連盟再発足。関東八大学主将連絡会議終わる。
1965	関西学生舞踏連盟発足	
1965	大阪大学社交ダンス同好会創部	大阪大学医学部、歯学部にて「社交ダンス同好会」を創部。練習は中ノ島にて行う。パートナーは、看護学校。
1968	大阪大学舞踏研究会創部	帝塚山大学、帝塚山短期大学が加わる。阪大側も医学部、歯学部から全学部に広げ、部名も「舞踏研究会」とした。
1974	チャチャチャ、ルンバが正式種目に	
1977	第一回七帝戦開催	
1977	第一回阪関戦開催	
1978	練習場を中之島から移動	
1983	全日で初めてファイナルに残る	夏全 WTFQ 4位(熊代・岸組)、 冬全 SL 2位(熊代・岸組)、W 4位(長谷川・平井組)
1986	京大が全国優勝	初めて優勝カップが箱根の関所から西に渡る
1986	映画「鹿鳴館」に阪大舞研部員数名がエキストラで出演	市川監督の映画「鹿鳴館」の舞踏会のシーンに阪大舞研部員数名がエキストラ役で出演
1987	全日で初めて団体入賞	夏全 団体6位(大阪大学)
1987	帝塚山大学男女共学に	パートナー校の帝塚山大学が男女共学大学に移行
1988	全日で初めて優勝	冬全 SL 1位(鈴木・小野組)
1988	全日で初めてラテンファイナルに残る	冬全 SA 6位(小林・澤田組)
1988	阪大が初めて団体優勝	西日本ラテン戦で団体優勝(1位村田・平岡組、入賞 小林・澤田組)
1989	阪大が初めて団体総合優勝	秋季関西戦で団体優勝(1位鈴木・松永組、2位塩田・和佐組、5位森田・丸山組。当時、全日優勝の京大を破り団体優勝)
1989	全日が初めて関西で開催される	以降、関東と関西交互に全日が開催されるようになった。
1990	サンバが正式種目に加わる	モダン WTFQの4種目、ラテン RCの2種目であったが、サンバが加わり、ラテンが3種目になった。
1991	パートナーに大手前大学が加わる	

年表(1991-)

年	トピック	概要
1991	競技服が、学生服からラテンが白シャツ、黒ズボンに変わる	学生ダンスの基本5原則から「学生服の着用」がとれて4原則になる。
1994	パソドブレが成績種目に加わる	モダン、ラテンが専業化
1994	モダンも学生服から燕尾服に変わる	
1995	初めてプロデビュー	19期の宮崎・山路組が、プロに転身
1996	映画[Shall weダンス?]が公開	
1996	ウッチャンナンチャンの社交ダンス部発足	テレビ放送(1996年～2006年)。社交ダンスブーム到来。
1999	ラテンの競技服に黒シャツが加わる	
2004	フォーメーションに燕尾服を正式採用	
2006	シャドーカップルが出場可能になる	
2007	大阪外語大学が大阪大学に統合	
2008	阪大が初めて七帝戦で団体優勝	関西で多数団体優勝するようになる。
2008	全日で初めてラテン優勝	冬全 P 1位(森田・舟橋組)
2009	部員が100名を超える	
2010	全日本学生競技ダンス連盟 OB/OGダンススポーツ競技会に参加	全日本学生競技ダンス連盟 OB/OGダンススポーツ競技会に参加。OBOG会再発足の話が出る。
2010	OBOG会再発足	ALL大阪大学舞踏研究会OBOG会が再発足。7月に第1回総会を開催。60名におよぶOBOGが集まった。
2011	OBOG会フォーメーションドレス購入支援	現役からのフォーメーションドレス購入支援要望にこたえ、OBOG会より購入資金援助を行う。
2011	全日で初めてフォーメーション3位	全日のフォーメーションに初めて出場し、3位を獲得。
2012	部員が80名程度に	

全日本戦績(創部～1999)

	夏全日		冬全日		
	団体	個人	団体	フォーメーション	個人
～1982					
1983		WTFQ 4位（熊代・岸）			F2位（熊代・岸）、W4位（長谷川・平井）
1984					
1985					W 6位（尾崎・小野）
1986	6位	WTFQ 4位（尾崎・小野）			W 4位（尾崎・小野）
1987		WTFQ 2位（尾崎・小野）			
1988		WTFQ 5位（鈴木・小野）			F1位（鈴木・小野）、SA 6位（小林・澤田）
1989					W3位（鈴木・松永）
1990					
1991					T4位（大矢・伊熊）
1992		WTFQ 5位（仲秋・梶山）			
1993					F1位（仲秋・梶山）、P5位（八木・谷）
1994					
1995					W4位（澤久・武山）
1996					
1997					
1998					
1999					

* 氏名は学連時

全日本戦績(2000～)

	夏全日		冬全日		
	団体	個人	団体	ノーマー ション	個人
2000					F4位（小林・穂坂）、T5位（郷原・荒尾）、S5位（早崎・引田）
2001	6位	M5位（郷原・荒尾）			F1位（早川・穂坂）
2002					T1位（早川・門中）、S3位（石塚・堀）
2003					W3位（早川・門中）、P2位（石ヶ谷・喜納）
2004		M4位（越石・田中）			
2005					
2006					F6位(中河・荒木)、P4位（田中・吉田）
2007					P4位（田中・吉田）
2008					P1位（森田・舟橋）
2009		M6位（和田・名出）			P3位（古小路・西澤）
2010			6位		
2011			6位	3位	Q2位（小林・鎮西）、S4位（今村・矢野）
2012		M3位（小林・鎮西）	3位	2位	W6位（小林・鎮西）T3位（一松・横田）
2013			6位		T4位（川内・木村）、Q2位（一松・横田）、S6位（横田・三木）、R 6位（浅間・沖村）
2014			6位		F5位（黒澤・為房）
2015		M1位（渡辺・市川）	2位		W3位（渡辺・市川）、R5位（岩田・山本）
2016			8位	2位	T6位（岸上・高柳）
2017	4位	M3位（岸上・高柳）	5位	1位	W3位（岸上・高柳）、Q6位（橋爪・常國）、C1位（久保・大河）
2018	4位		4位	1位	F3位（橋爪・常國）、Q4位（崔・河合）
2019	2位	M2位（天澤・大谷）	2位	1位	T2位（崔・河合）、F 2位（天澤・大谷）、Q 6位（宮川・鷹野）、S3位（吉野・岩越）

OBOG会活動

年	OBOG会会場	OBOG大会関西	結果	OBOG大会全日本	結果
	全体では長らく休止			第1回全日本学連OBOG戦	不参加
2010	堂島ホテル			第2回全日本学連OBOG戦 初参加	団体13位以下
2011	セレスホール			第3回全日本学連OBOG戦 震災により中止	-
2012	大阪市中央公会堂			第4回全日本学連OBOG戦	団体18位
2013	セレスホール			第5回全日本学連OBOG戦	団体15位
2014	大阪市中央公会堂			第6回全日本学連OBOG戦	団体11位以下
2015	大阪大学会館			第7回全日本学連OBOG戦	団体（関西学連）10位
2016	大阪大学会館			第8回全日本学連OBOG戦	団体（関西学連）12位
2017	大阪大学会館	第1回学連ダンススポーツ大会in関西	団体2位	第9回全日本学連OBOG戦	団体（関西学連）13位
2018	ジェンティイ	第2回学連ダンススポーツ大会in関西	団体優勝	第10回全日本学連OBOG戦	団体（関西学連）15位
2019	大阪 綿業会館	第3回学連ダンススポーツ大会in関西	団体4位	第11回全日本学連OBOG戦	団体（関西学連）20位



2010年7月 OBOG会 堂島ホテルにて



2011年7月 OBOG会 茨木市 セレスホールにて



2012年7月 OBOG会 大阪中央公会堂にて

ALL 大阪大学舞踏研究会
創立50周年記念パーティー



大阪大学
舞踏研究会

寄贈 ALL 大阪大学舞踏研究会 OG・OG会



2019年7月13日 創設50周年記念パーティ 大阪 綿業会館にて